

- 管内 留萌管内
- 分類 通学路の点検 交通安全教室 安全教育 その他（ ）
- 教育課程 教科（社会科） 道徳 総合的な学習の時間 特別活動
- 校種 小学校（低） 小学校（中） 小学校（高） 中学校 高等学校
- 取組のポイント

- 地域の危険箇所の調査活動による安全教育の充実
- PTA活動との連携やタブレット端末の活用による交通安全マップの作成

取組の実際

ねらい

- 児童が身の回りの危険箇所について現地で調査し、交通安全を遵守することの重要性について実感の伴った理解を深める。

内容

1 地域の危険箇所の調査活動による安全教育の充実

- 児童の目線に立った調査活動の実施
「みんなの安全マップ」の作成に向け、町内の危険箇所をグループに分かれて実際に見て回った。児童が危険箇所を自分たちの目線で直接見たり、何気なく通っていた道を注意深く観察したりすることで、道路内に潜む危険性やガードレールなどの安全のための設備の必要性について、実感の伴った理解を深めることができた。



【警察との連携による調査活動の様子】

調査活動に当たっては、警察の方々と一緒に見学し説明を聞くことで、通学路の危険箇所や事故を防ぐための活動について理解を深めている。

2 PTA活動との連携やタブレット端末の活用による交通安全マップの作成

- PTA活動と連携した事前学習の工夫
PTAが活動の一環として作成している「安全マップ」を参考にしながら、児童が危険箇所や安全のための設備などを調査する活動を行うことで、的確な情報をもとに効率よく事前学習を進めることができた。
- タブレット端末を活用した交通安全マップの作成
貸与されているタブレット端末で調べた場所や物を画像として保存し、グループ毎の「みんなの安全マップ」の作成に生かすことで、児童は興味・関心を高めて、意欲的に取り組むことができた。



【PTAが作成した「安全マップ」の一部】



【タブレット端末を活用した調査の様子】

<「みんなの安全マップ」の作成をとおして>

「みんなの安全マップ」の作成を終えた児童から、「PTAが作った安全マップの危険箇所を実際に見ることでその危険性を実感することができた」、「ガードレールがある場所の道路の危険性がわかった」などの感想が聞かれた。

成果と課題

- 授業後のアンケートでは全員が「危険なところがとてもよくわかる」と回答するなど、危険箇所や交通安全に対する実感の伴った理解を深めることができた。
- 実効性の高い学習活動として継続的な取組となるよう、特に、児童の実態や地域の変化等を踏まえながら、安全教育の計画を改善・充実する必要がある。